

令和2年度第2回 小平市環境審議会 会議要録

1 日 時

令和2年8月3日（月） 午後3時～午後4時45分

2 開催方式

Web 会議形式

※504 会議室を傍聴のために開放

3 出席者

○小平市環境審議会委員 11名

奥真美会長、中島裕輔副会長、小口治男委員、中川都委員、西村守正委員、服部千春委員、井内真委員、鈴木庸夫委員、三島雄介委員、小柳知代委員、青山一彦委員

○事務局 12名

環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

4 傍聴者

1名

5 議 題

- (1) 小平市第二次環境基本計画（令和元年度実績）について
- (2) 小平市地域エネルギービジョン中間見直し（令和元年度実績）について
- (3) 第二次エコダイラ・オフィス計画（令和元年度実績）について
- (4) 小平市みどりの基本計画（令和元年度実績）について
- (5) 小平市下水道プラン（令和元年度実績）について
- (6) 小平市一般廃棄物処理基本計画(改訂)の数値目標等(令和元年度実績)について【報告】
- (7) その他

6 配付資料

資料1-① 小平市第二次環境基本計画、小平市地域エネルギービジョン及び第二次エコダイラ・オフィス計画の令和元年度実施状況等の概要について

資料1-② 小平市第二次環境基本計画環境施策の令和元年度実施状況

資料1-③ 小平市地域エネルギービジョン中間見直し進捗状況報告（令和元年度実績）

資料1-④ 第二次エコダイラ・オフィス計画環境配慮行動評価書（令和元年度実施状況）

資料2-① 小平市みどりの基本計画の進捗状況報告（令和元年度末実績）の概要について

資料2-② 小平市みどりの基本計画2010進捗状況報告（令和元年度末実績）

資料 3-① 小平市下水道プラン（令和元年度実績）について

資料 3-② 小平市下水道プラン進捗状況（令和元年度実績）

資料 4-① 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（令和元年度実績）

資料 4-② 小平市一般廃棄物処理基本計画（旧ごみ処理基本計画）数値目標等の推移

7 内 容

(1) 小平市第二次環境基本計画（令和元年度実績）について

(2) 小平市地域エネルギービジョン中間見直し（令和元年度実績）について

(3) 第二次エコダイラ・オフィス計画（令和元年度実績）について

（事務局）

議題(1)～(3)について、資料 1-①に沿って一括で説明。

（委員）

エネファームの補助金の状況を教えてほしい。

（事務局）

令和元年度のエネファームの助成額は一機器あたり 2 万 5 千円である。国の補助金に合わせて高効率の機器のみを補助対象にしていることもあり、ここ数年、助成件数は減少傾向にある。

（会長）

目標値の設定は太陽光発電システムしかないが、エネファームの助成実績の累計も実施状況に記載した方がよい。足せば 2,000 件を超えており、直接の目標達成とはならないが、そう悪い数値ではないという事は示せる。

（委員）

第二次エコダイラ・オフィス計画の実施状況について、平成 17 年度と令和元年度の二酸化炭素排出量の比較で、4 施設ほど増加しているが要因分析はしているか。

（事務局）

小平元気村おがわ東と福祉会館については、基準年度である平成 17 年度に耐震工事があり、空調設備の稼働が少なく、エネルギー使用量が少なかったという事情がある。給食センターについてはかなり設備が古く、また、給食調理にかかる機器も古い状況である。中学校については平成 24 年度に空調設備を新たに設置したため、その後に電気使用量が増加している。

（会長）

要因が明らかになっている場合は、その説明を記載するとわかりやすい。

（委員）

空調設備の設置により、中学校の二酸化炭素排出量は増えているが、一方で小学校は減っている。空調設備の設置時期が違うからなのか。

(事務局)

小学校と中学校で空調設備の導入時期は若干異なると思われる。ただ、小学校は校数が多くエネルギー使用量の規模が大きい中でマイナスにはなっているが、マイナス幅は小さくそれほど削減は進んでいない。基本的には中学校と同様に空調設備設置の影響は出ているものと捉えている。

(委員)

小平市地域エネルギービジョンと第二次エコダイラ・オフィス計画の進捗状況で、削減量の差が大きく違っているのはなぜか。

(事務局)

小平市地域エネルギービジョンは市全域を対象としており、目標値はエネルギー消費量である。事業者や家庭の努力などでエネルギー消費量は減少していて、特に産業部門においては工場の移転などの要因もあり大幅に減少している。

一方、第二次エコダイラ・オフィス計画は市全域では無く、行政が実施する事務事業が対象となり、目標値は二酸化炭素排出量である。市職員も省エネに努めているが、小学校や中学校への空調設備の導入、保育園での延長保育サービスの実施など、行政サービスが拡大しているため、なかなか削減が進んでいない。

(委員)

第二次環境基本計画の公園いきいきリニューアルの数値目標について、詳しく説明してほしい。

(事務局)

公園いきいきリニューアルは既存公園の再整備を行うもので、令和元年度までに10公園のリニューアルを実施する目標である。なお、第二次計画策定中の平成22年度時点で4公園のリニューアルが完了していたため、厳密には残り6公園の実施を目標としていた。

既に目標は達成しており、平成30年度の累計は14公園で、令和元年度に更に1公園リニューアルして累計15公園となっている。

(委員)

第二次環境基本計画の進捗状況について、重点的な取組と数値目標が示されているが、これ以外にも数値目標化できそうな取組がかなりあるという印象を受けた。当時数値目標化をどのように判断したのかと、今後数値目標化は増やしていこうという考えかを確認したい。

(事務局)

環境基本計画はかなりの部署に関連するので、他の計画との整合を図るなど、調整した上で数値目標にできるかどうか判断している。また、数値目標を掲げるためには、予算を伴うものが多く、財政的に実施可能かどうかの判断も必要となる。

次期計画においても数値目標はいくつか持ちたいと考えている。新型コロナウイルスの影響により、市税収入は今後減少していくと予測される厳しい財政状況ではあるが、環境部としては予算を確保して数値目標も掲げられたらと考えている。

(委員)

公共施設への太陽光発電システムの導入について、令和元年度は1施設も導入できなかったようだが、耐震、積載荷重などの関係で設置できる施設がなくなってきているのか、そもそも、予算の都合で他の事業を優先しているのか、理由を伺いたい。

(事務局)

小平市はこれまで、公共施設に太陽光発電システムをかなり設置してきた自治体であり、既存施設については、屋根改修をしないと設置できない施設が残ってきている。そのため、費用対効果の点から太陽光発電システムを設置できないということがある。

なお、屋根改修しないで設置できる学校もあるが、広い屋上に太陽光発電システムを設置するとなると、逆に予算がかかってしまうという事もあり、国や東京都の補助金が見込めるタイミングを計ると、令和元年度にタイミングが合わなかったということもある。

(委員)

第二次環境基本計画の「公共施設への太陽光発電設備などの新エネルギー導入の推進」の令和元年度の取組状況のところで、今の様な事情を多少書かれても良いのではないか。見返した時の参考にもなる。

(会長)

計画改定作業の中で、これまでの振り返りをしてどこに問題があったのか、今後取り組める余地はあるのか、現状分析と課題の把握が必要である。それにつながる様な記述を年度評価の中に蓄積して、計画改定の時に生かしていくことを念頭に置いて今後も作業をしていただきたい。

(委員)

新型コロナウイルスの感染状況の関係で、公共施設や学校などでエアコンを使いながら一方で換気をずっとして、環境面からすごく気になる。令和2年度以降も省エネに取り組むとのことだが、全国的にもエネルギー消費量は増加すると思うが、小平市としての予測はあるか。

(事務局)

現在、学校では窓を開けながらエアコンをかけて授業をするという現状が続いており、印象としては全体のエネルギー消費量が増える傾向にあると考えている。一方で、その前の休校期間は事務室や職員室しか空調や電気は使っていないという状況もあり、相殺されてどのくらいになるか現時点では把握できていない。

これから下半期にかけてはエネルギー消費量が増える傾向が考えられるため、現在、教育委員会とはどうかたちで省エネに取り組めるか意見交換をしているが、具体的に結論が出ていない。いずれにしても省エネ対策は外すことのできない柱のため、各公共施設の所管課とは連絡調整しながら、できるだけ省エネの取組を心がけ、行動を促していきたいと考えている。

(会長)

第二次環境基本計画の進捗状況の「省エネ型機器等の導入及び適正な運用」の取組について、LEDを何台設置したというのが網羅的に列挙されているが、他と比べると細かすぎるので、まとめた方が良く、LEDが何台かという事よりも、蛍光灯を使っていたのと比べてどれだけCO₂削減効果が見込めるのかを、推計でも良いので記載してほしい。

併せて、小平市地域エネルギービジョンの進捗状況において、その他の取組4「省エネ診断及びESCO事業の導入」にも同じ内容が記載されているが、LED以外に何も検討がされていないのか確認したい。

(事務局)

省エネ改修の検討については、国の補助金を活用して平成30年度にカーボン・マネジメント強化事業を実施した際に、二酸化炭素排出量の削減効果が最も高いのがLED化ということがわかった。この結果を踏まえ、市では省エネ対策としてLED化を進めている。記載の仕方については検討させていただく。

(4) 小平市みどりの基本計画（令和元年度実績）について

(事務局)

資料2-①、2-②に沿って説明。

(委員)

民間の緑地資源を対象としている施策が見込んだ成果を上げられていない状況であるが、今後どのように成果を上げていくのか。

(事務局)

市では公共施設の緑化や緑地の公有地化など行っているが、財政的な課題など市のみで取組を進めるのは難しい状況もあり、市内の緑化に民間の協力は欠かせないと考えている。

現行計画においても、いくつか民間と協力して進める施策を挙げているが、見込んだ成果を上げられていない。次期計画においても、引き続き民間活用等の視点を入れて検討していきたい。

(委員)

現行の計画期間内で成果が上がったものとして、市民が公的なみどりに関わる取組などは挙げられているので、次期計画では民間のみどりに関しても市民が関わるができるような取組を増やしていくことが重要である。

(事務局)

現行計画で実施している市民との協働による樹林地の保全活動やアダプト制度など、良い活動は継続して進めていくとともに、新たな取組についても検討していきたい。

(委員)

屋敷林の保全については、東京都と連携して進めていくと記載があるが、具体的にどのような取組を進めているのか。

(事務局)

屋敷林については、民有地の緑であるため、市のみで取組を進めることは難しい状況である。東京都と区市町村の共同で策定している緑確保の総合的な方針を検討する場などを活用し、今後とも検討していきたい。

(委員)

屋敷林は減少しているので、引き続き保全に向けて取り組んでほしい。

(委員)

屋敷林に関する東京都の動きについて、東京都では環境部門とまちづくり部門のそれぞれの視点で検討を進めている。屋敷林については、重要な緑と認識しており、東京都から補助金を支出することなども含め検討している状況である。

(委員)

用水路について、現在、水が流れていない新小金井街道以東を対象に流水の復活を進める整備を行うとの記載があるが、予算の問題も含めどのように考えているのか。

(事務局)

用水路については、今年度に JR 武蔵野線の地下水を新堀用水に放流するための工事を JR が実施しており、来年度以降に新小金井街道以東や大沼田用水への放流が可能になると考えている。放流に備え、市では現在、護岸工事や土砂の撤去を行っており、来年度以降も引き続き環境に配慮した用水路整備を進めたいと考えている。

(委員)

現在、新小金井街道以東に水が流れていないのは、水が少ないことが原因ということか。

(事務局)

その通りである。用水路については、東京都水道局から水をもたらしている。例年より水量が多い今年は、新小金井街道以東に水が流れている状況である。

(委員)

大学などの教育施設内の緑は重要であると考えているが、安全管理が理由で伐採される樹木が多くなっている。保全と安全管理のバランスが難しいと感じるが、教育施設内の大木などを保存樹木に指定することはあるか。また、教育施設内の緑の保全についてどのように考えているか。

(事務局)

教育施設内の樹木について、市で全てを把握できてはいないが、施設内の緑についても増やしていきたいと考えている。市としてどのような支援ができるのか、維持管理費用など課題があるなかで所有者として緑をどのように考えているのか、双方の考えがあると思うが、次期計画のなかで検討していきたい。

(会長)

東京都と連携できるところは引き続き連携して進めてほしい。東京都が補助制度について検討しているとのことなので、情報の把握に努めて活用してほしい。東京都で検討している屋敷林の補助金については、いつごろ結論が出る見通しか。

(委員)

新型コロナウイルス感染症対策の対応で長期的な見通しが財政部門から示されていない状況であるが、昨年度に「未来の東京」戦略ビジョンを策定しており、それに沿った長期計画を策定することとなる。その計画の中に、緑の保全の部分をどのように載せていくのかは、もうしばらく時間がかかると思われる。示せる状況となれば情報提供したい。

(委員)

5-3「みどりづくり市民提案システム」について、見込んだ成果が上がっていないとなっているが、近隣市などでは市民からの寄附や公園管理の経験のある市民などを活用して、公園の管理や整備をしていたりする事例があるが、市民の活用などを検討しているか。

(事務局)

市民の活用について具体的な検討はできていないが、現在公園の維持管理について、市民の方に担っていただく公園アダプト制度などがあるので、次期計画においても市民との協働の取組と

して進めていきたいと考えている。また、新たな取組についても引き続き検討していきたい。

(委員)

他市では公園に関わる団体を増やす取組を進めている。具体的には民間団体へ公園の場を提供し、そこで民間団体がイベントなどを実施し公園の管理などにも関わってもらうような取組であるが、小平市においてもそういった取組を検討しているか。

(事務局)

民間の事業者の活用については、具体的な検討をできてはいないが、次期計画では公園をみどりの場として活用する視点を入れており、その中で事業者との関わりなども含めて検討していきたい。

(5) 小平市下水道プラン（令和元年度実績）について

(事務局)

資料 3-①、3-②に沿って説明。

(委員)

基本方針 I-2「合流式下水道改善対策」の雨水浸透ますの設置について、個人宅への雨水浸透ますの助成の目標が 80 件に対して、令和元年度は、20 件の申請があったということか。

また、毎年何件の予算を見込んでおり実際に何件申請があるのか。

(事務局)

本施策は、道路上の雨水ますの浸透化を図るもので、後期計画の目標設置基数 100 基に対して、令和元年度に 20 基設置し、累計 80 基となっている。

なお、令和元年度の個人宅への雨水浸透ますの助成件数は 19 件となっており、毎年 20 件程度、予算の計上を見込んでいる。

(会長)

雨水浸透ますの設置については、今後、第三次環境基本計画等の関連計画にも位置付けられるのか。

(事務局)

第三次環境基本計画と第三次みどりの基本計画の中で調整を図り、記載方法について今後検討していく。

(委員)

JR 武蔵野線の地下水を用水に流す際に、豪雨時の対応はどのようにしているのか。

(事務局)

豪雨時については、ポンプの一時停止や流量を調節するよう JR と調整している。

(会長)

基本方針 I-4「資源の有効利用」の雨水貯留施設の設置は、公共施設への設置が対象となっているが、民間施設への設置をどの計画に位置付けるのか整理が必要と考える。

また、設置数については伸び悩んでいるように見えるがどのような状況か。

(事務局)

本施策は公共施設への設置が対象となっており、民間施設を対象とした施策の位置づけは、今後検討していく。

また、雨水貯留施設の設置については、新規公共施設建設の際に計画されるもので、令和元年度の実績はなかった。

(委員)

基本方針 I-4「資源の有効利用」の再生水の利用について、現在、具体的な利用実績の記載はないが、全て玉川上水等に利用されていて、トイレの水など、他の用途として利用はできないのか。

(事務局)

下水処理場の再生水については、用水への利用の他に打ち水への利用が可能かどうか東京都下水道局から話を伺っている。今後、用水以外の利用用途についても検討していく。

(6) 小平市一般廃棄物処理基本計画（改訂）の数値目標等（令和元年度実績）について【報告】

(事務局)

資料 4-①、4-②に沿って説明。

(会長)

平成 30 年度実績に比べるとごみ量はかなり減っている。新型コロナウイルスの影響により家で過ごす時間が増えている中、本年度実績がどうなるか、今後の推移を注視する必要がある。

(7) その他

(事務局)

イベントの告知。

今後の環境審議会日程を連絡。